

校長室の窓から
『秋の日はつるべ落とし』とはよく言ったもので、朝夕めっきり涼しくなり、日暮れも早くなりました。

9月17日に実施された運動会では、大変お世話になりました。暑さとの戦いで、いかに短時間で効率よく練習するかを先生方は考え、練習内容を精選し1時間1時間のねらいをしっかり持って臨みました。子どもたちもその意図をよく理解し、暑中でもきびきびと動く姿はとて立派でした。その成果が当日もよく出ていたと思います。子どもたちの切れのいい動きと笑顔は、見ている人たちに感動とすがすがしさを与えました。



カラフル・パワフル・ワンダフル

このきびきびした動き、切れのいい動きや会話は日頃の学校生活で養われたものだと思います。

このような姿は、10月5日行われた東京校外学習でも見られました。この日は午前中は雨にたたられてしまいました。しかし、この雨を感じさせない子どもたちの見学ぶりでした。傘をさしながらも嬉々としてお店を覗いている子どもたち、女子が買い物をしているのを外で待っている男子、おじいちゃんにおみやげをと和菓子を熱心に選んでいる子どもたち、集合時間5分前にはきちんと並んで待っている子どもたち等々、きびきびとした雨を感じさせない子どもたちの姿でした。学校内だけでなく、校外に出たときにもけじめある行動がとれる子どもたちは本物だと思います。



浅草雷門前（6年生）

けじめある行動がとれるようにするには、目的意識を持つことが大切です。

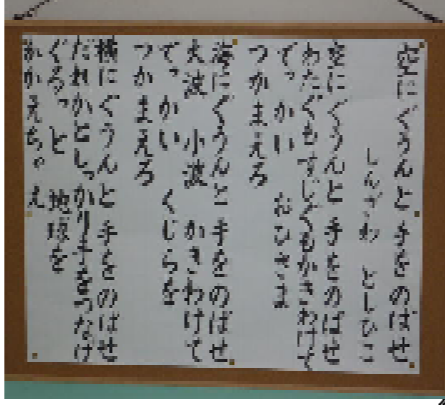
授業では、この時間で何を学習するのかがわかっていること
行事では、自分が立てた目標を持っていること

掃除の時間、黙働はどうしてするのかをわかっていること
などなど

子どもたちは目的意識を持ち、それに向かって努力しようとし、目標やねらいがしっかりしていないと何に向かえばいいのかわからなくなり、自ずと行動もだらだらしたものになると考えています。低学年では、先生方がリードしながら目標を持たせ、高学年になるにつれて、自分たちが考えた目標を持つことができるよう

な支援を行っています。そして、それに向かって努力すること・我慢することを体験し、達成感や満足感を得ることが大切です。運動会後も6年生の校外学習後も、子どもたちの笑顔がそれを物語っていました。僕たち私たちはがんばって素晴らしいものを手に入れたよと。きっと、ご家庭でもいろいろな話をしてくれたに違いありません。

今後、行事では校内音楽会、持久走記録会があり、学習では、授業内容も盛りだくさんです。それぞれの目当てに向かって、子どもたちが『ぐうんと手を伸ばして』くれることを期待します。



正しい言葉をつかおう

- ふだんつかっている言葉は正しいかな？
 - ・自転車（じてんしゃ）→「じでんしゃ」じゃないよ
 - ・気をつけ（きをつけ）→「きよつけ」「きょうつけ」って言ってないかな
- その言葉だれに言っていますか？
 - ・「おはよう」→友達や家族に
 - ・「おはようございます」→先生やた当番のお母さんや地域の人などに
 - ・「これ貸して」→友達や家族に
 - ・「〇〇がないのでこれを貸して下さい」→先生や友達のお母さんに
- 友達をよぶとき
 - ・「おい、山川。」「たぬき。」→「なんだよ！」と、こうなります。
 - ・「田中さん。」「ようこそさん」→「はい。」

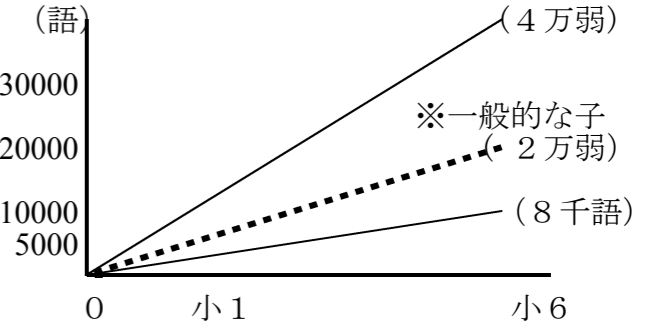
つなぐ言葉をつかおう

- 言葉は、キャッチボールみたいにつながるといいね
 - ・「きょう、朝からおなかいいたいんだ。」→「へえ、そう。」……これではつながりません
 - 「だいじょうぶ？」「もっといたくなったら、言ってね。先生に言ってあげるよ。」言葉と同時に心がつながっていきます。
 - ・50M走で記録をとっているとき→「8秒2だよ。」……これではつながらないね。
 - 「8秒2。すごいね、〇〇さん。」「ありがとう。こうやってうでを前と後ろに大きくふると早く走れるよ。」
 - 「へえ、そうなんだ。私も走ってみる。」
 - 「うん。中休みにいっしょに走ろうか。」
 - つなぐ言葉のチャンピオンはあいさつ！
 - ・「おはようございます」
 - ・「こんにちは」「こんばんは」・「さようなら」
 - ・「ありがとうございます」「どういたしまして」
 - ・「いただきます」「ごちそうさまでした」
 - ・「いってきます」「ただいま」
 - ・「おめでとう」「ありがとう」など
- ※あいさつは人と人をつなぐ大切なことばです

言葉を広げよう

○どれだけ言葉を知っているかな？つかえるかな？

・言葉をよく知っている子は小1で7千語程度
小学校卒業時には3万7千語もつかえるそうです。
反対に言葉を知らない子は小1で千五百語程度、小学校卒業時で8千語程度といわれます。

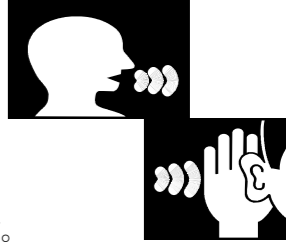


○知っている言葉がふえると人に何かを伝えるのがうまくなる。

- ・赤ちゃんは言葉を知らないから、気持ちを泣いて伝え、勘違いされることがある。
- ・言葉がつかえるようになると、伝えたいことを、言葉で表現する。うまく伝えられる人と話をするのが楽しくなりますね。

○つかえる言葉（語彙）をふやすためにどうする？

- ・わからない言葉を聞いたり見たり、読んだりしたときはまず聞いてみる。
- ・3年生以上は「国語辞典」を引いて調べる習慣をつける。
- ・読書をする。本には、私たちの知らない言葉がたくさんついている。
- ・新聞を読む。高学年になったら、新聞を読むことをすすめます。
- ・覚えた言葉をどんどんつかう。つかわないと、言葉を忘れてしまうものです。



独りよがりでは会話は成り立たず、相手に気持ちを伝えることはできません。「相手意識」が必要です。この言葉を発したら相手はどう感じるだろう、相手にわかってもらうにはどう表現したらいいのだろう、声の大きさはどれぐらいが適しているのだろう、と話したい相手を意識することによって、言葉遣いも変わってくると思います。正しい言葉遣いがなされることによって、良好な人間関係が築かれ、互いに気持ちのよい環境になるのです。そして、言葉遣いは学校だけでなく家庭でも養われます。ぜひ子どもが発している言葉に耳を傾けてみてください。大人の聞き上手が、子どもが正しい言葉を遣おうとする気持ちを育てると思います。適切な言葉遣いができる子どもが増えてきています。ご家庭でも、よい言葉遣いができるように励ましてください。

子どもたちの下校時にお迎えの車が多く、大変危険な状況が見られます。緊急車両が進入するための通路や、障害者用駐車場にも車が駐めてあります。先日お願いの文書を出しましたが、子どもたちの安全確保のためにもご協力をお願いいたします。